

## ホッキガイの肥満度の推移

福島県水産試験場相馬支場・平成10年度福島県水産試験場事業報告書

1 部門名 水産業－資源管理－ホッキガイ 19-04-5500000

### 2 要旨

平成9年当初から、磯部地先のホッキガイが痩せているとの情報があり、磯部、請戸、四倉産のものについて肥満度調査を実施し、その低下要因についても検討した。

(1) 9年は、産卵期(通常は4～5月)に向かって、特に磯部での生殖腺の発達が悪く、通常5月にみられる肥満度の大きなピークがないまま11月に最低となった。ただし、その後は、生殖腺の発達とともに上昇し、10年5月にピークに達し、その値は前年同期の2割増の7.5であった。その後、前年同様11月まで低下し、11年の産卵に向け再び上昇に転じた。肥満度のこのような季節変動(9年末～10年末にみられた、5月にピークに達し、11月に向けて低下していく変動)は、請戸、四倉でも同様にみられた。

(2) 9年11月の磯部では、高密度生息地点ほど肥満度が低い傾向がみられた。

(3) 同時期の肥満度は、いずれの調査回次においても、高い方から請戸、磯部、四倉の順であり、これは産地間の生息密度の順に逆に合致しており、高密度産地ほど肥満度が低い傾向がみられた。

(4) 殻長で成長をみると、現在の漁獲主群である磯部6年級は、かつてない大量発生群であり、通常年である同47～52年級平均と比較して成長が遅れており、特に高密度地点では、かなり遅れていた。また、四倉の現漁獲主群の5年級は、それをもさらに下回る成長を示した。

(5) 今回の肥満度の低下は、主に高密度のためにもたらされたものと考えられる。

(6) なお、9年4月の生殖腺の発達が悪かったことから、産卵期に向けて生殖腺が発達する冬期間の水温が高め(12月～3月の旬別水温が平年よりも0.7～2.8℃高い)に経過したことも、高密度の他に原因の一つとして考えられる。